

# 横浜市政新聞

## 敬老パス？ワンコイン？改悪か 利用制限

.....あり方検討会、利用者に負担増の方針.....

「敬老特別乗車証（敬老パス）制度あり方検討会」は、今年7月に行った市民アンケートや10月に募集した市民意見で敬老パスの現状維持を求める声が多かったにもかかわらず、利用者に負担増を押し付ける方針を打ち出しました。この方針は、様々な重大な問題点を含んでいます。

### 利用回数に制限

現行の敬老パスは、お金を心配しないで何回でも利用できることに最大の利点があります。ところが方針では、制度の

目的の中の「社会参加」を「いわゆるボランティア活動や趣味・娯楽など」として、一定程度の利用制限を設けることはやむを得ないとしています。

### 応益負担に切り替え

現行の制度は収入に応じて事業費の一部を負担する応能負担ですが、方針では、利用者によって利用回数に差があることから、利用回数に応じて費用を負担する応益的な受益者負担の考え方を取り入れていくことが望ましいとしています。

### 名ばかりの敬老パスに

これらのことから、市販のバスカードのような利用回数が決まっているプリペイド方式のカードや、バスに乗るたびに一定の料金を支払うワンコイン方式がそれらの組み合わせなど浮

かび上がってきます。そうなれば、利用回数と財布の中を気にしながらの外出となり、出控えることとなります。これでは、高齢者の「社会参加の支援」「福祉の増進」という目的を十分に果せなくなるのは必至です。

### 「厳しい財政状況」を前面に

見直しの背景として財政状況の厳しさをことさら強調していますが、6年後の税金負担が83億から109億円に増えるにしても、問われているのは敬老パスにどの程度の市費を投入するかという政策のあり方です。1兆3000億円という横浜市予算規模からすれば、敬老パス事業費は工夫次第で十分捻出できるはず

市は来年からの制度改悪をねらっています。



かえよう  
 すみよい  
 よこはまへ

- 1面 敬老パス・ワンコイン？ 利用制限？・改悪か／新市庁舎はいま必要でしょうか
- 2面 2006年度決算特別委員会より



### 日本大通り



日本大通りは、明治12年にR. H. プラントンにより設計された日本で初めての西洋式街路で、横浜港開港時、通りを挟んで外国人居留地と日本人街に分けられたことから、名付けられたといわれています。神奈川県庁や横浜開港資料館、旧商工奨励館、旧市外電話局など重要な施設の立ち並ぶ街路です。2006年からカフェテラスがオープンし、天気の良い日にはくつろぐ姿や写生する人々がみられます。秋にはイチョウ並木が銀色に色づき、異国情緒が漂います。  
 最寄り駅：みなとみらい線・日本大通り駅からすぐ、JR関内駅・地下鉄関内駅から約5分

市政へのご意見・ご要望は日本共産党横浜市会議員団へ

### 無料法律相談（弁護士が対応します）

- とき 毎週水曜日午後1～3時
- ところ 市役所（市会棟）内 日本共産党議員控室
- 連絡先 ☎67113032 要予約



### 敬老パス、これ以上の負担増はやめての署名、続々と

敬老パス負担増問題を考える連絡会は10月25日、市高齢健康福祉課に「高齢者の足を奪う敬老パス負担増は行わないこと」を求める1万3379筆の署名の要望書を提出しました。すでに提出した分も含めると1万6974筆の署名数です。連絡会では、敬老パス利用者31万人の1割にあたる3万筆以上を目標に、12月15日まで署名を集める予定です。



十一月五日に開かれた「ストップ敬老パス負担増！市民のつどい」に約八十人の市民が集まりました。（開港記念会館にて）

## 新市庁舎は いま 必要でしょうか

現在、50億円で耐震工事中、一方で、新市庁舎整備計画が進行中、1.3%の土地取得予定

現在、横浜市庁舎は、耐震補強工事を実施中です。工事期間は今年の春から2010年4月までで、総額49億350万円の予定です。最近国内外で地震が頻発しており、地震に対する備えは大切です。特に災害時に対策本部が設置されるであろう市庁舎の耐震工事は、待ったなしです。その一方で、横浜市は新市庁舎整備の一環として、北仲通地区の土地（UR都市機構所有）の取得を決めています。場所は、地下鉄みなとみらい線馬車道駅前のアイランドタワー（UR都市機構）隣の約1.3ヘクタール。取得価格は130億円以上と

報じられています。担当局の説明によれば、新市庁舎の場所として決めたわけではなく、現在の市庁舎の場所に建替える場合でも建替え期間中の代替場所として利用できるとしています。9月議会で、中田市長は、新市庁舎建設について、「市庁舎整備審議会」の答申を受け、「私のやり方でなんらかの形で進めていく必要がある」と答弁しました。そもそも「市庁舎整備審議会」の答申は1995年に出されたもので、当時と今とは社会状況も変わっており、再検討もせずに、



アイランドタワー（写真左、道路と川に囲まれた部分が問題の土地です。後方に現市役所（横浜スタジアム手前）が見えます。

開港150周年記念事業の一環として、いま1000億円ともいわれる巨大投資で新市庁舎を建設すべきなのでしょうか。